



はじめに

第8回「あの森を訪ねて」は都会の中で貴重な森林となった海食崖に残る美林50選の「根岸旧海岸の森」を訪ねる。

コースは、JR根岸駅～なつかし公園～根岸八幡神社～美林50選の森～根岸森林公園～馬の博物館～中華墓地～打越の湧水～JR石川町駅。距離4.5km。

根岸

根岸駅はマンションと石油コンビナートに挟まれている。マンションの間から、これから行く森の緑が眩しく感じられる。

かつて、このあたりは、根岸村といわれ、明治の初め頃は麦等の畑作のほか漁船が60隻余もある漁業の村でもあった。海では海苔の養殖や漁業が行われていた。

また、屏風ヶ浦の名が残るように屏風のように切り立った海食崖が続き、横浜開港によって訪れた外国人にミシシッピーベイと呼ばれた風光明媚な根岸湾がひろがっていた。

だが、この海も昭和34年(1959)から埋め立てられ、そして崖上の丘陵地では住宅地の開発が進み、さま変わりしてしまった。

海岸線は後退し、住宅地にできない急峻な海食崖とそこにある森が帯状に1.8km程残されたというわけである。

根岸懐かし公園

この公園は、横浜市の指定有形文化財となっている旧柳下邸を中心として造られている。

家は、各所に贅を尽くした造りで、大正から昭和にかけての豪商の暮らしの雰囲気を残している。

裏に鬱蒼とした海食崖の森を背負い、前面には根岸湾を眺望することができる小高い所にある。

山手から根岸に続く丘には、明治後半から居留外国人の住宅が造られ始め、根岸から富岡に続く丘陵地には日本人の別荘も造られるという流れの中にある。

屋内は自由に見学できるので立ち寄ってみるのもおもしろい。



美林50選の森

根岸小学校への角を曲がり、根岸八幡神社を目指す。

美林50選の森は、この神社の社叢林で県の天然記念物に指定されている。森林は、急な海食崖を覆って大小さまざまな種類の樹木が生育している。

森林の状況等は天然記念物指定の説明版の記述をそのまま記す。



『根岸八幡神社の社叢林は根岸台の急な崖上に発達している。スダジイ、タブノキ、カクレミノ、ヤブツバキ、シロダモ、モチノキ等の常緑広葉樹林で斜面上部はヤブコウジースダジイ群集と判定される。斜面下部はタブノキ、ケヤキ、シロダモの優占しているイノデータブ群集が発達している。

林内には胸高直径60cm、樹高18mの大木も生存している。スダジイ、タブノキの樹勢も盛んで土砂崩壊防備林保安林としての機能も果たしている。

根岸埋立地に面した最後の郷土の自然林ともいべき八幡神社の社叢林が、将来にわたって県民の自然教育の場として、また郷土林としての景観維持、環境保全林、災害防止保安林など多彩な機能を果たすことを願い、ここに天然記念物に指定するものである。

『昭和55年12月 神奈川県教育委員会』



指定から35年がたった。

当然ながら木は成長する。見た目は豊か森になり景観維持等の働きが向上したと喜んでばかりはいられない。崖地なるゆえの高木の倒伏、林内の暗部化による下床植生の減少などによって土砂災害などの発生が懸念されなくもない。

森は、神社の横から中を貫いて台地の上と下を結んでいる九十九折の階段道から、よく見える。

横浜開港と外国人

台地の上には住宅地が広がる。

山手、本牧、根岸と続く丘は、横浜開港に伴って山手地区が外国人の住宅地として開放され、各国領事館や外国商人の館が造られた。

また、山手から根岸・本牧にかけて居留外国人の要望で慶応元年（1865）に遊歩道が造られた。

遊歩などという概念のなかった幕府は、さぞとまどったのではないだろうか。この外国人遊歩道のルートは「緑と洋館の巡り道」として現在も活用されている。

根岸森林公園

バス通りに出て、立入禁止の看板のついた米軍施設のフェンス沿いに行くと、競馬の一等馬見所、今でいう観覧席の豪壮な建物のあるモーガン広場にて。

馬見所は、モーガンの設計により昭和5年に竣工した。

平成21年には近代化産業資産に指定された歴史的な建物で、現代の機能重視で味気なく、どこか冷たい感じのする建物に較べて、

存在感があり、なぜかほっとさせるものがある。

ここからの眺めは良い。横浜市の中心地域のほか、丘の上のゆったりとした米軍住宅地なども見わたせる。



根岸森林公園は日本で最初の洋式競馬場跡につくられた。

競馬は、公園の外周道路にあたる1周1700mの芝コースで行われ、慶応3年（1867）の第1回レースから昭和17年までの76年間行われた。

この競馬場も遊歩道と同じく、幕府が諸外国と「横浜居留地改造及び競馬場墓地等約書」を取交わして造られたもの。始めは居留外国人のみの利用だったが、のちには日本人も加わって賑わい、その後の競馬場のモデルとなった。

戦後は米軍が接收し、ゴルフ場や乗馬施設などに利用されていたが昭和44年に一部返還され、昭和52年（1977）に森林公園と中央競馬会による馬の博物館がオープンした。



公園内はゴルフ場だったこともあり、芝生が広々として他の公園には見られない開放感がある。

馬の博物館では、馬に関する歴史や絵画などが展示されており、一見の価値がある。

中華墓地

競馬場の開設とともに栄えてきたユリノキの街路樹が続く山元町の坂道を下り、途中の中国人墓地に立ち寄ってみよう。

開港後は商館等で働く中国人も多く来日した。山手の墓地が手狭になったため、明治7年に新墓地としてここに造られた。

その中に木骨レンガ造りの地藏王廟が建てられている。市内で最古の近代建築物とのこと。

墓地は日本のものと変わらないが、廟内には赤いローソクが燈され異国の雰囲気がある。



山元町の三叉路交差点から、直進すれば西洋館や外人墓地のある地域となる。



左に行く。打越橋の下にランドマークのビルを見て、関東大震災や空襲の時に人々を救ったという打越の湧水で汗を鎮め、少し先を右手に行くと外国人遊歩道の起点であった地藏坂の入り口を過ぎて石川町駅となる。

（2014. 10 瀧澤）